

## 本を読むということ PART I

CMEO 事業部 田村 一雄

本コラムでいつか「読書と食事」というタイトルで駄文を書こうと考えていた。私が中学生の頃、萩原健一主演の「傷だらけの天使」である回にショーケンのボス役の岸田今日子の「私は SEX を見られるより食事をみられる方がイヤ」というようなセリフがあって、ああわかる、なんて思ってしまったのである。読書も似たようなものだと思った。私はどんな本を読んでいるのか、読んできたのかあまり人に言いたくないし、ものすごい量の本を読んでいることを自慢する人とか、今読んでいる本を人に言いたいタイプの人もいるが、そういうのはいかがなものかと思っていた。

そこで、ネタも切れてきたことだし、本好きで知られる船木知子という私の部下との対談形式で本欄を埋めてみようと考えた。船木は 1997 年に入社し、現 CMEO 事業部の前身である化学・素材事業部の基礎を数年かけて一緒に築き上げてきた最も信頼できるパートナーである。対談は口頭ではなくメール形式で行った。その結果、食事のことはあまり出てこなかったので、話題を「読書」に絞ってタイトルを「本を読むということ」に改めた。それだけでも語りつくせないテーマであるため、このシリーズは複数回に渡って掲載していきたいと考えている。現段階では何回で終わるか決めていない。

**田村** オレが中坊の頃萩原健一が出ていた「傷だらけの天使」というドラマがあって一世を風靡したんだけど、ショーケンのボス役の岸田今日子のセリフで「私は SEX を見られるより食事をみられる方がイヤ」というのがあって今でも覚えているんだけど、中坊の分際で、ああわかる、なんて思ってしまったんだよね。今にして思えば、きちんとした食事マナーを教わってこなかったコンプレックスみたいなことが「わかる」なんて思わせたのかなとも考えられるんだけど。何でこの話を持ち出したかというと、読書というのも似たようなもんだと思うんだよ。食事が細胞や体をつくるものならば、読書は心とか頭の内部をつくると思うわけ。だから、どんな本を読んでいるのか、読んできたのかあまり人に言いたくないし、ものすごい量の本を読んでいることを自慢する人とか、今読んでいる本を人に言いたいタイプの人もいるけど、オレは

いかがなものかと思うわけ。※1 相原なんか、どちらかというとこのタイプだよね。後輩に本とか薦めているみたいだし、人が読んでいる本も気になるみたいだし。そういう意味では、この対談はオレが読んできた本がどんなのかバレてしまう可能性も高いんだけど、反対に隠しすぎるのも自意識過剰っぽくてヤだから、まあ、自然に話していきたいとは思っているんだけど。船木さんは、このあたりどう。

**船木** 読書、についてですが、田村さんのおっしゃりたいのは「読書とは極プライベートな行為である」ということだと思います※2（合ってますか？）。私は、読んでいる本、読んできた本を人に知られたくないという意識は、これまで特に強く持ったことはありません。聞かれれば答えることは平気です。ただ、読書の話って、価値観というと大げさですが、モノゴトの感じ方にどこか共通点がないと、やりにくいとは思います。その意味で、親しい人には読書の話は平気でできますが、あまり親しくない人とは、当たり障りのない範囲でしか話そうとは思いません。親しい人や、よく知っている人とは、読んだ本の感想を語り合ったり、本を薦めたり薦められたりは全く抵抗ないのですが。おそらく無意識に「自分の頭の中をオープンにできる相手かどうか」を選んでいるのでしょうかね。ということは、田村さんのおっしゃる事と同じ、でしょうか。

もっと言えば、読書って、その本に書かれた世界観を追体験することだと思うので、世界観を共有できない人とは本の話ができないという事なんでしょうね。自分が共感した世界＝面白いと思った本、好きな本を、他人からけなされると、ちょっとムッとしてしまうことってありませんか？（私はムっとします）

話しあは変わりますが、子供の頃に「課題図書」ってありましたよね。私は読書感想文を書くのは大好きだったのですが、課題図書がとっても嫌でした。これは多分、「読みたい本」を読むのではなく「読むべき本」を指定されるということが幼心に嫌だったので思います。面白かったよ、読んでみな、といわれるのはOK。それ無しで、この本を読め、といわれるのはNG。何となく今でもその傾向は続いています。これも、何となく、これまでの話とつながるような気がします。

読み返してみたら、面白くないし話しが発展しませんね。。。

ちなみに、今現在私が読んでいる本は、小沢昭一の「雑談にっぽん色里誌」。何回

も読み返してるんですが、何度読んでも面白いです。皆さん「何度も読み返す派」ですか？「一度読んだらおしまい派」でしょうか？これも、人によって傾向が分かれるように思います。

食べ物の話が出てこない・・・。

**田村** 食事と読書は似ているというおれの勝手な前提がおかしいのかもしれません。というか、ピンとこないのかもしれません。まあ、食事のことがフェイドアウトしていくならタイトルを「本を読むということ」みたいに変えてもいいし。意識しなくてもいいでしょう。まあ、船木さんの文章がおもしろい（笑えるという意味で）とは期待していません。思うことを書いてください。話があっちこっちいくかもしれないけど。

とりあえず、何点か答えると①夏休みの課題図書は読まないかざっとあらすじを追ってクソのような感想文を書いていました。感想文というよりあらすじを追つただけでしたね。小学校1年のとき、読まないで「おもしろかった」とだけ書いて提出したら先生に怒られました。

CMEO 事業部で本の話をしてあまりないよね。みんな本好きなのはわかっているんだけど。オレがこんなスタンスだからオレがいないときにしているのかな。

そういう（どういう？）意味では、初めて読む本を選ぶときはどういう基準で選んでますか。書評で興味を持ったとか、あらかじめ好きな作家だからとか、本屋で直感的にとか、タイトルとか。おれは全部だけど。

**船木** CMEO で本の（読書の）話があまり出ないのは、それぞれの本の好みや感動するポイントなど、読書のツボ的なところが各人ちょっとずつ違う、というのを、皆さんとなく感じているからではないでしょうか？

田村さんの感想文エピソードはちょっと意外でした。小中くらいまでは、きつちり書いて賞とからもらっているタイプと思っていましたので・・・。「おもしろかったです」は、確かに怒られちゃいますね。

本の選び方は本当にいろいろです。小説だと、まずは好きな作家の作品で未読のものが多いです。歴史小説などだと、好きな時代、好きな地域が舞台のもの、好きな

人物が主人公のものなど。書評を参考にする場合もありますが、小説だとこのケースは少ないです。

小説以外ではテーマで選びます。最近だと昭和初期～戦後すぐ頃までの性風俗関連（赤線、青線、吉原など）、舞台芸能関連（演者の評伝、演者自身による芸談、舞台裏話、スタッフサイドの話、など）、旅行記、方言、地域本、戦前の女学生（旧制女学校）に関するもの、日本史、中国史関連いろいろなど、など・・・。書評を参考にするケースも多々あります。その時々に興味を持っているテーマで面白そうなものがあれば買うという感じで、一貫性がなく、乱読というべきでしょう。本を購入する際、どこで買うかというのも結構重要だったりしませんか？私は本屋とアマゾンが多いです。本屋をぶらぶらして、面白そうなものを買うケースが多いのですが、アマゾンで何冊か買うと、お勧め本がリストアップされてくるので、それを見て買ったりもします。

上海では地下鉄駅の構内に本屋がありました。立ち読み客多数で、非常に静かだったのにちょっとびっくりしました（お行儀よくできるんじやん！的に）。海外では、書店で本を見るというよりも、書店に来ている人を観察するというのが面白いです。

**田村** 本を買うのは近所の TSUTAYA か●●サティの中の本屋か会社の隣の文教堂が多いです。その3箇所に目的の本がないときとか、取材等出先の場所によっては紀伊国屋とか丸善なども行きます。アマゾンは1～2回注文したことがあります。何の本か忘れたけど。CDとかを買う場合もだいたいこんな順番です。

船木さんの本を選ぶ傾向は、失礼ながらなんとなくわかるような気がします。最初の話に戻るんだけど、こういうことがばれちゃうのがヤなんだよね。例えば、本や雑誌に書いてあったギャグが気に入ってそれを発信したときとか、仕事上で本に書いてあったことをそのまま意見として言ったときとか、その出所がバレたしたら、おれはものすごい赤面すると思う。だから、こういうことを言わざるを得ない場合は、必ず「●●の本に書いてあったんだけど」とか「前に読んだ本のタイトルは忘れたけど」とか言ってきたはずだし、そういう意味ではええかっこしいとも言えるし、本からインスピレーションを得たとしても消化した上でのオリジナリティを大事にしたいと思っているし。

それでは、オレが読んできた作家をラインナップしてみます。初公開です。

【中学時代】星新一、横溝正史、高木彬光、小松左京（⇒角川映画の影響）

【高校時代】あまり覚えていない。音楽ばかりやってたからかなあ。半村良とか森村誠一読んでたなあ（⇒角川映画の影響）。あと沢木耕太郎、五木寛之もあった。

【大学時代】あまり覚えていない。酒ばかり飲んでいたからかなあ。思い出した。以降ずっと村上龍。コナン・ドイルとかエラリー・クイーンとか海外の推理小説やミステリーも読んだなあ。

【30歳台まで】司馬遼太郎、開口健、野田知祐

【40歳台まで】夢枕獏、花村萬月、ナンシー関、田口ランディ

【40歳以降】今野敏、中島らも、中村うさぎ

ああ、おれは芸能人やスポーツ選手（主に格闘技）本も多いですね。今思い出せるのはこんなところかなあ。上にあげたのは結構その年代に集中して読んだという感じだけど作品数がそんなに多くないところでは川上健一、浜なつ子、海老沢泰久とか。トータルでみると文学的というよりエンターテインメント系ですかね。

ところで、おれは20歳くらいまでは、親からもらう小遣いとは別に本代はある程度潤沢（といつても限りはあります）にもらえたんだよね。それでパチンコ行ったりもしてたんだけど。小学校4~6年の先生が恐いおばさんの先生で（井●●女ーい●●●めー！という名前）いつも「本を読め」って言ってたし、親に「先生にそう言われた」って言えば、高等教育を受けていない親としては本代は出さざるをえなかつたのかもしれないね。

**船木** うーん、私は読書傾向や本を選ぶ傾向を人に知られるのは特に抵抗無いんですね。抵抗あるのは、前も書きましたが、好きな本（=私が選んだ世界観）をけなされたとき。別に、面白くなかった、とか、合わない、とか言われるのは全然平気なのですが、「あんな本を面白がる人の気が知れない」「あんな本が気に入るなんて未熟者だからだ」的な言い方をされると、この人とは分かり合えないんだろうなあ、と、心にカーテンをかけます。本だけでなく、マンガとかアニメとか音楽などでもそうですが。

ある程度意思を持って読む本を選び出したのは思春期以降ですね。特に、高校に入つてからの読書は、今の私のかなりの部分を作り出したように思います。

それでは、田村さんに続き、私の読書遍歴をさらしてみます。

【中学時代】子供の本から大人の本へと移行し始めた時代。星新一、遠藤周作、井上ひさし、北杜夫（好きな男子が読んでいた）。横溝正史（時代ですね。同じく角川映画の影響。クラスでも流行った）。赤毛のアンシリーズ（女子なら一度ははある）。三国志（この時代に三国志デビュー）。ノストラダムスの大予言、731部隊関連の新書（カッパノベルスだったか）などなど

【高校時代】山岡荘八、吉川英治（長編歴史モノに開眼）、塩野七生、陳舜臣、栗本薰（グインサーがに開眼。ミステリーも読んだ）、コナン・ドイル（NHKで放映していたシャーロックホームズのファンだった）。学校の関係で仏教系の本も結構読みました。

【大学時代】授業関連の本が増える。中国モノ多数。山田詠美、クラーク、アシモフ（所謂古典SF）、中国文学（魯迅、巴金、その他。授業で必要だったので）。

【社会人以降】池澤夏樹、わがぎえふ、田辺聖子、吉屋信子、堀内修、関容子、田中芳樹、清水義範、沖縄関係本多数。等、等、等。

考えてみると、その時々の所謂「ベストセラー」は高校時代以降あまり読んでいません。今も書店平積みの本は手にとらないですね。上記は小説中心ですが、小説以外のものやマンガまで含めると、結構混沌としてきます。

私は田村さんとは逆に、お小遣いが非常に少なくて、本代には事欠いてました。その反動で、今は欲しい本があれば躊躇なく「即買い」です。・・・子供の頃は図書室のある家に住むのが夢でした。

（やはり長くなりそうなので続く…）

**[筆者注]**

※1 「相原」 CMEO 事業部 チーフマネージャー。2001 年入社。2010.2 の初回の本コラム「ソウル支社のご紹介」で取り上げた「I 君」とは彼のことである。正式なイニシャルは「A 君」になるのだが、「I 君」の方がリアルに思えてこうしました。

※2 (合ってますか?) と問われたので答えますが、合っていません。なぜ合っていないと思うかは、以降の対談で明らかになってくるかもしれません。なってこないかもしれません。

**執筆者略歴：田村一雄**

1989 年、(株)矢野経済研究所に入社。以来、化学・素材分野の調査研究に従事し、現在はデバイス領域まで調査領域を拡げ、CMEO 事業部の事業部長としてエレクトロニクス分野の川上から川下領域を統括。知的クラスターへのコンサルティング実績を有するほか、台北事務所所長、ソウル支社長を兼務。